

3/13 パラオブルーサポーター最終ミーティング(意見交換会)を開催!

これまで、パラオフェアやオリンピック・パラリンピアン交流事業、友好都市である宮城県蔵王町との交流など、本市における様々なホストタウン交流に携わってきた「パラオブルーサポーター」が、3月末で活動の一区切りを迎えるのを前に、最終回となる意見交換会を開催しました。

ミーティングでは、これまで実施した事業についての報告や令和3年度の活動証明書の交付を行ったほか、サポーター一人ひとりが活動に参加した感想を述べました。サポーターからは「高校生から大人まで幅広い年代が一緒に活動できたことが刺激になった」「今後もパラオの魅力を伝えるイベントや蔵王町との交流などに積極的に関わっていききたい」などと話がありました。

令和元年9月の「パラオブルーサポーター」創設以来、県外を含む市内外に居住する10代から70代までの30名の方々が、サポーターとして本市のホストタウン交流事業に参画しました。サポーターの皆さんには、今後も、これまでの活動の経験を生かし、東京2020大会のレガシーの継承に向けて、パラオ共和国や蔵王町との継続的な交流をはじめ、スポーツの振興、共生社会の実現、地域づくりなどの幅広い分野において活躍していただけることを期待しています。



▲ミーティングの様子



▲オンラインで参加したサポーター

秋田県大館市からのプレゼント

友好都市協定を結んでいる秋田県大館市教育委員会から、秋田杉伝統工芸品である「ペン入れ」と「マルチスタンド」が交流の深い大宮小学校と大宮中学校の令和3年度卒業生に贈られました。

それぞれの校章が焼き印でつけられたオリジナルとなっています。

本市からは、西の内紙で漉いた卒業証書を記念品として大館市内の小中学校4校に贈りました。



▲木のぬくもりを感じるペン入れとマルチスタンド



▲ペン入れ (大宮小学校)



▲マルチスタンド (大宮中学校)